

「体育心理学」の授業評価 ～同期型授業と対面授業の比較～

保健体育講座・田中雅人

1. 授業の概要

体育・運動・スポーツを心理学的側面から研究するための科学的基礎を得ること，体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得することを目的とした。到達目標は，1) 運動の学習と学習過程に関わる主要な概念，および種々の運動学習理論の変遷を説明できる，2) 運動の記憶や知識構造と運動学習との関連性を情報処理論的な立場から説明できる，3) 視覚を中心とした知覚システム，および情報処理の概念モデルを示すことができる，4) 主体的に実験実習に取り組むことができるの4つであった。

到達目標を達成するために，1) 運動学習の過程，2) 学習理論，3) 運動学習の理論，4) フィードバック，5) 運動の記憶，6) 運動の知覚，7) 状況判断の過程の7つの領域について概説した。受講生は11名で，修得した知識をスポーツ実践や指導に一般化できることを目指した。評価は，課題・レポート（40点），試験（40点），学習状況（20点）とした。

同期型授業では，Moodle，Teams，修学支援システムを使用した。それぞれの用途は，以下の通りである。

Moodle：資料の配付，課題・レポートの提示，課題・レポートのフィードバック，動画の配信（Youtube へのリンク），アンケート調査

Teams：同期型授業，グループワーク

修学支援システム：メール送付（資料のダウンロード，課題の指示，授業の案内など）

同期型授業では，プレゼン用ソフトを使用し，図表，写真，動画，アニメーションなど，その特性を有効に活用できるよう努めた。

2. 授業評価

従来実施していた評価項目に，同期型授業に関する項目を加え，以下の6領域・18項目に対する5段階評定と自由記述（Q1～3）によるアンケート調査を Moodle で実施した。なお，今年度は，前半は同期型授業，後半は対面授業であった。前半・後半における各質問項目の評定値（平均値）を表1に示した。

【質問項目】

●理解度

1. 授業の目的は，十分に達成された。
2. 到達目標は，十分に達成された。

●授業内容

3. 授業はシラバスに則して行われた。
4. 授業の進度・時間配分は適切であった。
5. 授業のレベルは適切であった。
6. 授業内容は役に立つものであった。

●教授方法

7. 説明はわかりやすかった。
8. 質問や発言の機会が適切に与えられていた。
9. 視覚的教材（スライド，ビデオ）の使い方は効果的であった。
10. 配布資料の使い方は効果的であった。

●同期型授業（*）

11. Moodleによる資料配布や課題提示は有効であった。
12. Teamsによる同期型授業は有効であった。
13. Teamsでのグループワークは有効であった。

●受講生の意欲・関心

14. 授業に対して意欲的に取り組んだ。
15. 授業の内容に対して興味・関心があった。

●評価に関わるもの

16. レポートの課題は適切であった。
17. 試験の内容は授業内容に則していた。 (**)
18. 評価の方法は適切であった。 (**)

【自由記述】

Q1-1. 本授業は同期型授業となりましたが，通常の対面授業と比べて良くなかった点（あるいは良かった点）はどのようなところですか？ (*)

Q1-2. 本授業は対面授業となりましたが，同期型授業と比べて良かった点（あるいは良くなかった点）はどのようなところですか？ (**)

Q2. 本授業の内容を体育やスポーツの指導場面どのように活用できると思いますか。具体的に記述してください。

Q3. この授業に対する感想，意見，注文，改善すべき点など自由に述べてください。

* 前半（同期型）のみ，** 後半（対面）のみ

表1. 各質問項目の評定値

| 項目 | | 前半 | 後半 | |
|---------|--------|-----|-----|----|
| 理解度 | 目的 | 3.7 | 4.1 | △ |
| | 達成目標 | 3.3 | 3.9 | △△ |
| 授業内容 | シラバス | 4.2 | 4.7 | △△ |
| | 進度・配分 | 4.3 | 5.0 | △△ |
| | レベル | 4.4 | 4.6 | △ |
| | 内容 | 4.7 | 4.9 | △ |
| 教授方法 | 説明の仕方 | 4.6 | 4.7 | △ |
| | 質問・発言 | 4.6 | 4.7 | △ |
| | 視覚的教材 | 4.4 | 4.7 | △ |
| | 配布資料 | 4.3 | 4.6 | △ |
| オンライン授業 | Moodle | 4.3 | - | |
| | Teams | 3.8 | - | |
| | GW | 3.7 | - | |
| 取り組み | 意欲 | 4.3 | 4.3 | |
| | 興味・関心 | 4.2 | 4.7 | △△ |
| レポート | レポート課題 | 4.1 | 4.1 | |
| | 試験の内容 | - | 4.6 | |
| 評価 | 評価の方法 | - | 4.6 | |

△：上昇

1) 理解度

前半は、3.5前後とやや低い評定値だった。「①例示の運動や現象を実際に見ることができないから、理解するのが難しい」等の記述があったように、同期型授業の難しさが感じられた。なお、後半は、4.0前後となり、概ね達成されていた。

2) 授業内容

前半は【3.シラバス】と【4.進度・配分】でやや低い評定値であった。前半は、同期型授業であったため、シラバスに示した通りに内容を実施することができなかった。「②実験などがあまりできなかった」との記述があったように、実験実習ができなかったことで低い評定となった。後半は、概ね高い評定値となった。「③実際に運動の体験ができた」、「④自分たちで試行するような時間がたくさん与えられていたためより理解することができた」との記述があり、対面授業を行うことによって、改善されたと思われる。

授業内容を今後どのように活用できると思うかに対しては、表2に示したように、運動学習理論やフィードバックの活用に関する記述(⑤～⑦)、言語的指導や練習方法に関する記述(⑧～⑫)、心理的サポートに関する記述(⑬～⑮)がみられた。「⑯具体的な指導法につながる部分が多かったので、そこを教育現場にいかしていきたい」、「⑰技術面の向上を目的として指導することはもちろんだが、指導したいことをどのような方法でどのように工夫をすれば一番身につけやすいかな

どについて考えることができた」という記述があったように、本授業で修得した知識を体育の授業やスポーツ指導に活用してもらえればと思う。

3) 教授方法

前半、後半ともに、評定値は4.3～4.7と概ね高い値を示した。前半は、Teamsの画面共有を用いてスライドを提示したが、「⑱サッカーや野球の動画など、実際の動きの動画をたくさん見ることができ、学びにつながった」や「⑲具体的な実践例や競技の中での現象などを提示してくれるのでわかりやすい」という記述があった。一方、「⑳Teamsは接続が悪くなることや共有画面が小さい」といった記述もみられた。通信環境によっては、動画がうまく流れない、音声途切れる等の問題があったようだ。対面での授業と同様にスライドを使用した。動画については、通信環境への考慮が必要であった。なお、容量が大きい動画については、Youtubeを活用することで対応した。前半は、資料の配付をMoodleで行ったが、書き込みが必要なものもあったため、印刷環境が整っていない場合には不便だったかもしれない。

4) 同期型授業

【11.Moodle】の評定値は4.3と概ね高い値を示した。資料の配付、課題・レポートの提示とそのフィードバック、動画配信のためのリンク、アンケート調査等にMoodleを活用した。他の授業でも使用されているため、受講生にとっても使い勝手のよいシステムだったと思われる。【12.Teams】と【13.グループワーク】の評定値はやや低い値を示した。「㉑画面が途切れてしまったり、音が聞こえにくくなったりなどがあった」や「㉒グループワークが行いづらかった」等の記述があった。一方、「㉓参加やグループワークはしやすかった」や「㉔同期型だとグループワークができてよかった」という記述もあり、通信環境や使用している機器の違いが評価の差として示されたと思われる。また、「㉕ペアワークができなかったことで、個人で考える時間がしっかりと与えられていた」という記述があった。対面授業だとペアワークやグループワークが容易にできる半面、個人でじっくりと考える時間を奪っているのかもしれない。今後、考慮すべき点である。

5) 意欲・関心

【14.意欲】の評定値は4.3、【15.興味・関心】は前半4.2、後半4.7であった。対面授業では、実験実習を実施することができ、動画等も同期型授業よりも観やすかったことから、評定値が上昇したと思われる。同期型授業では、実験実習の実施は難しいが、疑似体験できるような教材を工夫することが必要である。

6) 評価に関わるもの

【16.レポート】は前半、後半ともに、4.1とあまり高い値ではなかった。レポートは、実験実習ができず過去のデータを使用したため難しい作業になったと思われる。「②⑥普段 Excel を使わないので、レポートでグラフを作るのに苦労した」という記述があった。一方で、「②⑦Excel を用いて、結果の処理を行いながら、考察をすることがとても良い経験になったと感じました」や「②⑧結果を数値としてグラフ化して比較することにより、新たに見えてくるが多くあることを学びました」というように、受講生のスキルによって評価の違いが生じたようだ。レポートの書き方については、丁寧に説明したつもりなので、今後の学習に活かして欲しい。

試験の平均点は、76.2 (SD=5.20) , 最高点と最低点の差は16点であった。得点のばらつきは大きくはなく、授業の目的は十分に達成されたと思う。

3. 同期型授業と対面授業との比較

同期型授業と対面授業の評定を比較したところ、いずれの評定値も上昇していた(表1)。特に、【2.達成目標】、【3.シラバス】、【4.進捗・配分】、【15.興味・関心】で顕著であった。前述したように、前半は同期型授業となり、シラバス通りに授業が進行しなかったことが原因だろう。また、「④自分たちで試行するような時間がたくさん与えられていたためより理解することができた」、「②⑦グループワークがとり入れられていたことで考えを深めることができた」等の記述にあるように、後半、対面授業になったことで評定値が上昇したと思われる。前半は、スライドや動画の視聴に支障をきたすなど、通信環境による影響があった。今後は通信環境の整った講義室の開放等、受講生にとって不利にならないよう対応を検討していくことが必要である。

なお、対面授業に対する不安を感じている受講生もいた。十分な感染予防対策を行うとともに、対面での開講理由を丁寧に説明することが大切であると感じた。

表2. Q2に対する回答(抜粋)

| | |
|--------------|--|
| 学習理論 の活用 | ⑤学習曲線などを用いてどのような練習が必要であるのかを決める。例えば、プラトーやスランプの時期に同じような練習をしていては効果が薄い。 |
| | ⑥フィードバックの方法や頻度、種類などについては意識しておく、結果に大きな差ができると思った。(例えば要約フィードバックを利用することで、技能や能力を保持させるなど) |
| | ⑦部活動では、個々に応じてフィードバックの仕方を変える。部活全体としても、個々としてもレベルを上げるために、練習の方法を駆使する。 |
| 指導法・ 練習方法 | ⑧部活や体育の授業を行う際に、生徒にどのような指導(タイミングや言葉選びなど)を行えば効果的なのかということがこの授業で理解することができたので、生徒一人一人に合った指導を行っていきたいと思います。 |
| | ⑨子どもの運動状況やパフォーマンスレベルを認識し、その子に応じた言葉かけや運動活動を行う。例えば、積極的に運動を行う場面では、褒めたりいつもとは違う特別な練習や遊びを取り入れたりする。 |
| | ⑩学習初期と後期で、フィードバックの与え方や指導・練習の仕方を変えることの効果を学んだことを活用する。体育の授業では、学習初期または授業前半には分習法を、学習後期かつ授業後半には全習法を行うように単元を構成する。 |
| | ⑪授業を企画する際、練習プログラムを組み立てる際に効果的な練習法等について根拠を持って組み立てられるように活用できると思った。 |
| 心理的 サポート | ⑫動きに合わせて練習の仕方を変える。バスケットボールで3ポイントシュートやフリースローはブロック練習、ランニングシュートなどその他のシュートはゲーム形式などのランダム練習をする。 |
| | ⑬実際にサポートの仕方を工夫できると考える |
| | ⑭スポーツを指導する際、表面的な指導に留まらず内面的な部分(スポーツを行う人の考えや特性など)からも捉えて指導できるため、より効果的な指導ができると思う。 |
| | ⑮体育は運動することがメインに考えがちだが、身体を動かすときの心理状況や、他の運動との類似点などを考えていくことで、さらに深く運動についての知識が身につくと感じた。 |